



(1) MEIJI VISION 150 ―前へ―

創立150周年に向け、2019年に発表した「明治大学グランドデザイン2030」を発展させ策定。総合大学として、学部・研究科の枠を超え、社会のニーズに対応した教育プログラムを展開するとともに、大学院では研究と教育を深化させ、世界のフロントラインで活躍する研究者を養成する。教育を受ける時期や年齢・場所を問わない多様な教育を提供し、多様な「個」を磨き、自ら切り拓く「前へ」の精神を堅持し、時代を変革していく人材の育成を目指す。

(2) 「就職に力を入れている大学」15年連続1位

高校の進路指導教諭を対象に行った2024年度の調査のうち、「就職に力を入れている大学」の項目で、明治大学は15年連続で1位となった(大学通信調べ)。1、2年次の「キャリア支援」に力を注いでいる点も大きな特徴で、キャリアガイダンスや各種プログラムなどを通して早期からキャリアを意識する機会を提供している。この他にも、弁護士・公認会計士・公務員やマスコミ業界を目指す学生を支援するための各種研究所をキャンパス内に整備。学部の垣根を越えて、同じ志を持った学生が目標達成に向けて切磋琢磨できる環境を提供している。

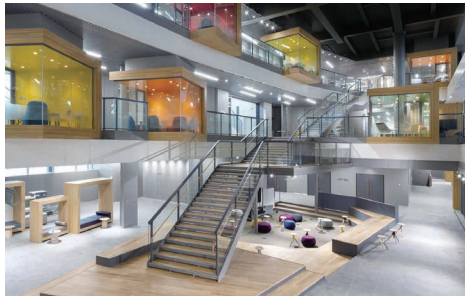
(3) 奨学金

明治大学独自の奨学金制度は全て返還不要の“給付型”。全国で採用枠が1,000もある入学前予約型の「おゝ明治奨学金」から、入学後に採用が決まるものまで、その種類は多数ある。

会や紫紺会などで密接につながっています。そうした方々のリソースも集積し、大学全体でスタートアップを支援していきま。実際の起業の



国際混住寮「Meiji Global Village」



2022年4月に誕生した「和泉ラーニングスクエア」



2025年4月開館の生田「センターフォレスト」



国際交流寮「Komae International House」

社会学、経済学をはじめ、学際的な知識とデータ分析力・語学力を備え、各界で活躍する課題解決のプロフェッショナルを育成します。

次代の新たな価値を創造する起業家精神に富んだ学生を育成

近年、世の中ではスタートアップ(起業や新規事業創造に関する総称)に対する注目と期待が大きくなっています。明治大学では2022年度から「持続可能な明治大学発スタートアップの育成」を目標に、学部・大学院生を対象としたビジネスコンテストを開催。また、今春からアントレプレナーシップ(起業家精神)教育と実際の起業支援業務を行う組織として「明治大学 起業・スタートアップ支援室」を開設しました。スタートアップの入門教育を行う全学共通総合講座の運営、学生の起業活動支援、各種問い合わせ対応など、学内のスタートアップ関連活動のハブとして、人的・教育資源を集約する役目を果たします。

「現在、本学の卒業生は約61万人に及び、そのうちの40万人とは、校友会や紫紺会などで密接につながっています。そうした方々のリソースも集積し、大学全体でスタートアップを支援していきま。実際の起業の

支援だけでなく、アントレプレナーシップを備えた人材を社会へ送り出すことに、大学全体で取り組む意義があると考えています」(上野学長)

世界に開かれた大学として留学制度をさらに充実

文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業にも採択された明治大学は、世界トップレベルの教育力を有する大学を目指すため、2031年までに在学生の50%に留学経験をもらうという目標を掲げました。達成に向けて、多彩な制度を整備。留学相談(カウンセリング)や学生留学アドバイザー、英語学習アドバイザー・オフィスアワーなどを充実させています。

留学費用面では、ベンシルベニア大学やコロンビア大学など、世界屈指の名門大学に1年間留学すると最大で700万円を助成する「海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」を整備。一般の「外国留学奨励助成金」給付額も大幅に引き上げました。海外からの受け入れについても支援内容を見直し、助成金制度を改定しています。

「しかし、送り出し、受け入れの双方を増やしただけでは、国際化が実現したとは言い難く、大学そのものが国際化しなければなりません。そのためには留学した学生の経験を、留学経験のない学生たちにもさらに広く共有できるような制度を設計中です」(上野学長)

LINE でつながる。



うえの まさお
上野正雄学長
1980年明治大学法学部卒業。2003年裁判官から明治大学に転職し、助教授、教授を経て2024年より現職。専門は刑事法(犯罪学、少年法、犯罪者処遇法)。

明治大学は1881年、岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操によって「明治法律学校」として創立されました。3人は鳥取、山形、福井から藩の貢進(選抜)生として、明法寮(のちの司法省法学校)に学び、その後、岸本と宮城はフランス留学で当時のフランス自由主義に大きな影響を受けました。

建学の精神は「権利自由、独立自治」。「個」の確立を通じて、社会を支える一人ひとりの市民を育てるという精神です。これは現在の教育理念「『個』を強くする大学」に継承されています。

2031年、明治大学は創立150周年を迎えます。2019年に発表した「明治大学グランドデザイン2030」をさらに発展的に展開して「MEIJI VISION 150―前へ―」を策定し、10年後の明治大学のあるべき姿をビジョンとして位置付けるとともに、具体化に向けて新たな取り組みが始動しています。

明治大学

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 入試広報事務局 TEL 03-3296-4139 <https://www.meiji.ac.jp/exam/>

150周年の節目に向け新たな構想を展開

1881年に「明治法律学校」として、「権利自由、独立自治」という建学の精神のもと創設された明治大学は、2031年、創立150周年の大きな節目を迎えます。

1世紀半の時を経て、大学を取り巻く社会の情勢は大きく変化しました。経済活動のグローバル化は歴史の上まれに見る豊かさをもたらす一方で、環境破壊や資源の枯渇、戦争、弾圧、差別、貧困など、人類の存続さえ脅かしかねない問題を地球上に出現させました。こうした問題を解決する力ギは、明治大学の建学の精神の中に込められていると上野正雄学長は語ります。

「権利自由、独立自治」とは、最終的には一人ひとりの人間を大事にするという精神に尽きます。そこは建学以来ずっと変わっていません。学生数3万5000人を超える大学でありながら、個々の学生に教員・職員が真摯に向き合い、対応しています。学部間の垣根を低くし、自由

データサイエンス・AI関連の教育強化

いま、世界ではさまざまな問題の解決にビッグデータの活用が注目され、AI(人工知能)が社会に大きな変革を起こそうとしています。こうした革新的技術には数理工学の発展が不可欠です。明治大学は文部科学省の令和6年度「大学・高専機能強化支援事業」に、大学院先端数理科学研究科の事業計画「明治大学数

な学びの場を提供することで、諸課題を解決する力を持つ人間を育てたいと考えています」

一人ひとりの「個を磨き、ともに持続可能な社会を創る」という基本コンセプトのもと、2019年に教育における長期ビジョン「明治大学グランドデザイン2030」を発表しました。そして、創立150周年に向けて「MEIJI VISION 150―前へ―」を策定し、10年後の明治大学のあるべき姿をビジョンとして位置付け、具体化に向けての方針を定めました。

「教育研究機関である大学の財産は教員と職員、そして学生であり、それが核心部分です。現在、本学は非常にバラエティに富んだ10学部を擁し、全学共通の多彩な講座やプログラムを数多く用意しています。1000人の専任教員や研究者がいる本学の価値を、一人ひとりの学生に十分還元できるように大学改革を進めていきます」(上野学長)

課題解決のプロフェッショナル育成の新学科設置

政治経済学部では来春、「地域行政学科」の学生募集を停止し、「政策学科」を新たに開設します。

「グローバルゼミション下における『地域』には地方や都市、国家、世界など様々な意味と可能性がある一方で、解決困難な諸問題を抱えています。そこで、住民や企業、政府自治体など、それらを構成する主体が各々の役割に応じて適切な政策を企画・立案し、実行していくことが不可欠となります。新学科では改めて『政策』という言葉に着目し、理論と実践を鍛えるカリキュラムを整備しました」と上野学長。政治学、

一人ひとりの「個」を重視し少数重視の教育を展開

「大勢の中の一人ではなく、一人が集まって大勢になるという自覚を持つてほしい。そして、自分を大切にすると同時に、他者も尊重できる学生になるよう期待しています。全授業の半分以上が学生数30人未満で行われていること、さらに、教育・研究だけではなく、就職に関しても1年次から人生のキャリアプラン作成を支援するなど、学生同士、学生と教員とのつながりを大切にしていきます」(上野学長)

10年後には、中野キャンパスにある国際日本学部と総合数理学部を駿河台キャンパスに移転することを予定していますが、これも両学部の先進的な教育・研究を明治大学全体に還元しようという目的があります。建学の精神である「権利自由、独立自治」を今こそ深く理解し、実現することこそが、現代社会の抱える問題解決につながると考え、明治大学はこれからも「前へ」進んでいきます。



駿河台キャンパス・リバティタワー